

【応募用紙】

提出いただいた応募書類（規約・会則等、役員名簿、収支書類を除く）は、活動内容紹介のため、ホームページ上に公開します。

1. 応募者概要

氏名または団体名	うつくしがおか ちゅうぶじちかい あせすいんかい ゆうほうわーさんぐぐるーぶ ひやくだんかいだんぶろじえくと 美しが丘中部自治会 アセス委員会 遊歩道ワーキンググループ 100段階プロジェクト		
代表者の役職・氏名 (団体の場合)	ふじいもとこ (役職) 代表 (氏名) 藤井本子	会員数 (団体の場合)	(令和2年11月現在) 13 名
ホームページアドレス	https://100dan-kaidan.org	活動開始年月	平成 29 年 8 月
活動地域 (複数選択可)	1 横浜市 (青葉) 区 2 横浜市全域 3 その他()		
活動分野 (複数選択可)	1 川・海・水 ② 緑・樹林 3 農業 4 3R ⑤ 環境教育・学習 6 生物多様性 7 地球温暖化対策 ⑧その他(まち 遊歩道)		
活動の目的やねらい	<p>「丘」の街である横浜市青葉区美しが丘は、その名前の通り高低差のある郊外住宅地です。昭和40年代の開発当時より「歩くための町」というコンセプトのもと、クルドサック方式の道路(仏語・居住者以外の車が進入しないような道路/袋小路)、ラドバーン方式(米国ニュージャージー州ラドバーンのニュータウン開発における歩行者と自動車分離の計画手法/自宅から学校や駅へ車に出会うことなく歩ける)の4840メートルにおよぶ本格的な遊歩道、歩車道分離帯やグリーンベルトのある道路などが整備された新しい都市計画構想に基づく街づくりが実現された地域です。しかし、開発から50年以上を経た今日、時間の経過による老朽化が目立つ箇所も増え、高齢の住民も増えています。町の特徴でもある遊歩道において、危険箇所を改善し多くの人々が楽しく歩ける道として再生し、他地区に誇れる地域資産とするための魅力づくりを実現したいと考えました。</p> <p>美しが丘小学校下の「百段階」とそれに続く遊歩道はこの地域のいちばん標高の低いところ(標高49[㍎])から一番高いところ(標高80[㍎])を包含し、丘の町である美しが丘を最短距離で体感できる場所です。これを美しが丘地区のランドマークとし、私たちの世代でできる遊歩道の整備・修景活動を通じて、次代の街づくりを担う若い世代の「地元愛」やふるさと意識の醸成に繋げ、持続可能な郊外住宅地のあり方を提示していきたいと考えました。この整備は区域内の他の階段や遊歩道の今後の整備にも波及していくきっかけともなります。また、遊歩道が整備され歩く人が増えることでコミュニティ意識の向上、健康増進、防犯などの効果も期待できます。</p> <p>残された区間の整備や修景に関しても行政の担当部署に働きかけていくとともに、美しが丘らしさのある遊歩道づくりのために、行政による基本的な整備に+αの価値を付け加える活動を継続しています。</p> <p>平成30年、美しが丘小学校は創立50周年を迎えました。記念の年に通学路である百段階が自分たちも関わって修景されたことはきっと子ども達の記憶に永く残るはず。また、子育て世代の若い住民に「まちづくり」への興味と参加を促すことができます。</p>		
過去に受けた表彰および受賞年度	2018年 ヨコハマ市民まち普請 2019年 ハウジングアンドコミュニティ財団第27回「住まい活動助成」 第10回 共同通信社「地域再生大賞」優秀賞受賞 2020年 住宅生産振興財団「第15回住まいのまちなみコンクール」住まいのまちなみ賞		

2 最近3年間の主な活動（詳細は添付資料参照がございます）

	活動・取組・イベント等の名称 発行した印刷物等の名称	参加人数、 発行部数等	詳細内容
平成30年度	<p>平成30年度ヨコハマ市民まち普請（添付資料）</p> <p>①美しが丘小学校創立50周年お祝い階段アート</p> <p>②コモンスペースの設置</p> <p>③階段カラーリングワークショップ</p> <p>④たまプラ遺産タイルの設置・百段階段への標高プレートの設置等【写真資料④】</p> <p>⑤まち歩きシリーズ 7回</p> <p>⑥美しが丘中学校で授業</p> <p>⑦花の100段階段 花かご作りワークショップ 階段への飾り付け</p>	<p>①30名</p> <p>③200名</p> <p>⑤各回 10～15名</p> <p>⑥4名</p> <p>⑦20名</p>	<p>①創立50周年式典の朝、登校してくる子どもたちにサプライズ（階段にカラーガムテープで祝50の文字を表示）【写真資料②】</p> <p>②団地前バス停と連続した歩道橋下空間の整備（ベンチ・夜間照明）</p> <p>③小学生およびその家族・地域住民の参加による100段階段カラーリングワークショップの実施</p> <p>④この段はジャブジャブ池の高さ（55^{cm}）、この段はABC公園の高さ（67^{cm}）等の表示を9枚、また、遊歩道ネットワーク内のジャブジャブ池やABC公園には100段階段の○段目と同じ高さといったたまプラ遺産タイル等を設置（コンクリート平板8箇所）</p> <p>⑤様々な職業のプロフェッショナルがナビゲートするまち歩き【写真資料①】</p> <p>⑥中学1、2年生にまちづくりについての授業（6コマ）</p> <p>⑦美しが丘小学校卒業式の朝、卒業生を送る階段花道 事前に住民がペットボトルで花かごを制作</p>
令和元年度	<p>ハウジング&コミュニティ「住まい活動助成」（添付資料）</p> <p>①100段階段のぼり初め式</p> <p>②コモンスペース設置</p> <p>③たまプラ遺産タイルの設置・百段階段への標高プレートの設置など</p> <p>④太鼓橋カラーリングワークショップ</p> <p>⑤まち歩きシリーズ6回</p> <p>⑥美しが丘中学校での授業</p> <p>⑦たまプラ遺産MAP・ホームページ</p> <p>⑧花の100段階段 花かご作りワークショップ 階段への飾り付け</p>	<p>①150名</p> <p>④120名</p> <p>⑤各回 8～18名</p> <p>⑥5名</p> <p>⑦2000部</p>	<p>①100段階段のお披露目セレモニー コーラスやダブルダッチなどの催しと階段でのお花見【写真資料③】</p> <p>②スツール設置および座面へのロゴ彫り込み</p> <p>③百段階段への標高プレートの設置4枚、また、遊歩道ネットワーク内のたまプラ遺産タイル4枚を設置（コンクリート平板）</p> <p>④2カ所の歩道橋の手すり部分に耐候性シールを貼付してカラーリング</p> <p>⑤NTTdocomoの協力を得、デジタル情報提供（デジタルサイネージにまちの情報をマッピング）、その他前年同様</p> <p>⑥中学1年生にまちの歴史授業（3コマ）2年生にバリアフリーマップづくり授業（NTTdocomo）（3コマ）</p> <p>⑦たまプラ遺産MAP（2000部）（添付資料）やホームページを制作</p> <p>⑧美しが丘小学校卒業式の朝、卒業生を送る階段花道</p>
令和2年度	<p>住まいのまちなみ賞研究活動助成（添付資料）</p> <p>①まちの元気度調査</p> <p>②MAP制作（予定）</p> <p>③NPO法人化検討勉強会</p> <p>④ランステーション企画</p> <p>⑤ビニール傘カスタマイズワークショップ（11月）</p> <p>⑥花の100段階段（3月） 花かご作りワークショップ 階段への飾り付け</p> <p>⑦遊歩道内へのコモンスペース整備（2月）</p>		<p>①美しが丘の元気度調査：良好な住環境を維持するために現状を知るワークショップ</p> <p>・環境調査 ポイントごとの気温・湿度・排気ガス・騒音・風・場所ごと（駅近・団地・住宅街など）の夜の明るさ調べ（慶應SFCの厳網林研究室・日進アドソルの協力により環境センサー設置/年度内に100カ所を予定）</p> <p>・生物多様性の調査 鳥・昆虫・動物 植物 etc. 日本野鳥の会トコロジスト養成講座（2021年 1月～） トコロ（場所）+ジスト（～する人）＝足下にこだわる場所の専門家</p> <p>・花壇・並木道・桜などまち歩きをしながら楽しめる植物を探してマッピング（4月）</p> <p>②MAP制作・ホームページの拡充</p> <p>①の調査結果をふまえてwebだけでなく小さい子どもや高齢者のための紙媒体も制作する。毎年レイヤーを重ねるようにさまざまなまちの情報を掲載</p> <p>③他地域の地域活動ヒアリング・勉強会（4月5月） NPO法人化の是非など検討</p> <p>④たまプラ・ランステーション 企画検討 企業への提案が受け入れられ、たまプラザ駅近くのコナミスポーツクラブ内に発足予定</p> <p>⑤太鼓橋に貼付したシールを使ってビニール傘などをカスタマイズするワークショップ</p> <p>⑥美しが丘小学校卒業式の朝、卒業生を送る階段の花道</p> <p>⑦東急株式会社「みど＊リンク」助成による遊歩道内へのコモンスペース整備</p>

3 地域との関わり

	活動・取組等の名称	詳細内容
自治会・町内会との関わり	美しが丘連自治会 美しが丘商店街連合 美しが丘中部自治会	アンケート、整備箇所の事前説明会開催など協力 ワークショップ(階段・太鼓橋カラーリング、花の100段階花かご作りなど)参加・協力 活動寄付金 Map配布協力
学校との関わり	美しが丘小学校 美しが丘中学校 慶應SFC厳網林研究室	創立50周年記念事業 階段アート「祝・50」(2018年) 卒業おめでとう「花の100段階」(2017年～継続) 1・2年生対象の社会科授業(年1回 2017年～2019年) まちづくりについて 土地の歴史について バリアフリーmap作り など GIS たまプラーザ環境調査(2020)
他の市民団体との関わり	美しが丘小学校 PTA・おやじの会 たまプラコネクト(シェアカル)	アンケート、ワークショップ参加呼びかけ、「花の100段階」協力 まち歩きシリーズ共催
企業等との関わり	・東急株式会社 「みど*リンク」アクション ・次世代郊外まちづくり リビングラボ実証実験 NTT×NTTdocomo×たまプラコネクト ・M-NEX環境センシングPJ 慶應SFC厳網林研究室×日進アドソル	2020年度助成金;遊歩道内のCOMMONスペース整備 ・さんかくBASE 共創スペースの使用 Map配布協力 ・NTTdocomo まち歩きシリーズ(2019) マップアプリの提供 ・慶應SFC厳網林研究室・日進アドソル郊外まち住環境センシングプロジェクト環境調査(2020)環境センサー提供 たまプラスマートシティ～100センサプロジェクト
行政との関わり	横浜市民公益活動緊急助成 都市整備局地域まちづくり課 青葉区区政推進課 青葉土木事務所	リモート会議・動画編集などのためPCおよびアクションカム購入 ヨコハマ市民まち普請 整備箇所の相談・許認可関係(2017年～継続) 健康づくり歩行者ネットワーク事業
その他、環境以外の分野との関わり	地域住民・たまプラーザで仕事や地域活動をしている人々	100段階プレートへの協賛(40件 添付資料⑥参照) 活動への寄付 ワークショップやまち歩きシリーズへの参加

4 団体の発足経緯／活動を始めたきっかけ、動機

※立ち上げた主体、どのようにして活動に携わる人が増えてきたのか等も合わせ、具体的に記入してください。

※個人の方は、活動を始めたきっかけについて記入してください。

美しが丘中部自治会建築協定委員会は32年間の継続期間を経て地区計画へ移行しましたが、地区計画では規定しきれていない配慮事項を自主的に守る地域ルールを「街並みガイドライン」としてまとめ、その運用のために「青葉美しが丘中部地区計画街づくりアセス委員会」を立ち上げました。活動の中で2008年に「歩行者専用道路を考える会」ができ、住民を巻き込んだ遊歩道ワーキンググループとして地区内の遊歩道をくまなく歩き、将来へ向けての提案をまとめて行政へ働きかけたことにより、いたんだ舗道の改修が1カ所実現しました。

住民の高齢化が進む中で、住環境を維持するために住民が力を尽くす、という美しが丘のまちづくりスピリットを次の世代に伝えるために何をすべきかと考えていた折りに、平成27年度より横浜市中期4カ年計画(2014～2017)の中で美しが丘地区が横浜市都市整備局の「健康づくり歩行者ネットワーク」の対象地区に定められ、遊歩道や公園の整備が進められることになりました。

これをチャンスと捉え、私たちの街の最大の特徴である「遊歩道」の環境や景観をますます良好なものに整備していくための第二期遊歩道ワーキンググループをアセス委員会内に立ち上げました。地域住民に限定せず、外部からデザイナーやアーティスト、たまプラーザに事務所を持つ建築家集団などをメンバーに巻き込みました。建築協定を牽引してきた先輩方にこれまでの街づくりの経緯をレクチャーしてもらい実務は若い世代が受け持つことでお互いにリスペクトし合う関係が生まれました。

また、最初の整備箇所を小学校の通学路にある階段に定め、ワークショップ形式で小学生とその保護者である子育て世代を動員することで、これまでまちづくりに興味のなかった世代に参加のきっかけを提供し、その結果アセス委員の担い手も複数見つかり委員の平均年齢を引き下げています。ワークショップの記憶が子どもたちの中に残り、彼らが大人になった時にまちづくりについて考えるよすがになることを願っています。

5 今までの活動

活動の目標・ねらいに対する成果

言葉で説明しづらかった活動内容がヨコハマ市民まち普請により整備が叶ったことで視覚的な納得が得られ、次年度からの様々な助成につながり、活動の内容も充実してきています。日本全国の地域活動団体とつながりができたことでいろいろな地域ごとに抱える問題、解決への手法、地道な努力など学ぶこともたくさんあります。周囲からの認知度も高まり、幅広い世代の参加が増えています。顔見知りが増えることで自治会活動への参加もしやすくなっているようです。

生物多様性に関する取組（生物多様性特別賞の選考の参考とします）

日本野鳥の会より講師を招き「たまプラトコロジスト養成講座」シリーズ(2021年1月～)生き物地図をつくります。

状況がゆるせば、小学校の総合学習との連携を図っていきます。

6 今後の活動方針

※次年度以降の目標や、活動継続のためにどう引き継いでいくのかも含めて具体的に記入してください。

※現在活動休止中の場合でも、今後の活動の見込みや方針について御記入ください。

新型コロナウイルスの蔓延により、参加者を募ってのワークショップやまち歩きなどに影響が出ています。しかし巣ごもり生活のおもわぬ副産物が、遊歩道を歩いたり走ったりする人が増えたことです。3月に発行したmapが大好評でした。家にいる時間が増えたことが居住環境に目を向けるきっかけになったのではないのでしょうか。

横浜市より市民公益活動緊急助成金をいただきノートPCとアクションカメラを購入しました。個別にまち歩きをする際の助けになるよう、いろいろなコースでのまち歩きやランの動画をHPで紹介していきます。もちろんこれまで通りデジタルになじまない世代に向けての紙媒体のmap制作・配布も継続していきます。

今年度から環境について考えていきます。リビングラボ活動としてM_NEX(可動型ネクサス:デザイン先導型都市食料・水・エネルギー管理のイノベーション)との協働事業(慶應SFCの厳網林研究室・日進アドソル)で、2020年10月より2021年2月の期間、標高の違う場所に3台の環境センサーを設置し、温度・湿度・気圧・CO2量などのデータを集め100段階プロジェクトホームページ上で公開しています。(2020年12月からは100段階にちなんで100台を順次投入予定)

また、これまで続けてきたまち歩きシリーズの発展形として日本野鳥の会より講師を招き「たまプラトコロジスト養成講座」を1月よりシリーズで開催します。

環境調査の目的は自然(動植物)だけではなく、地形や地質、歴史など総合的な視点でまちを見る体験を通してまちへの愛着を醸成し、持続可能なまちづくり活動につなげる試みです。子どもたちや子育て世代を巻き込んで、一緒に活動できたら良いと考え、展開方法を探っています。

東急株式会社「みど*リンク」アクションの助成により遊歩道(歩行者専用道路)内にコモンスペースの設置を年度内に行います。ウォーキングする人が増え、遊歩道の活用が促進されれば防犯やまちの美化にもつながります。将来にわたって住民同士の交流や健康増進を図れる場所、ウォーキングの途中で一休みできる場所を増やしていきたいと考えています。

たまプラーザ駅周辺にランステーション設置について企業への提案企画書の持ち込みを行いました。たまプラーザ駅近くのコナミスポーツクラブにおいて実現予定です。ランニングする人が増えれば、夜間の防犯にもつながります。リビングラボ活動に発展すれば整備費用の捻出にもつながっていきます。

7 審査にあたり、最も注目してもらいたい取組、PRポイント

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、第28回は、審査会場でのプレゼンテーション(自己アピール)を実施しません。審査の参考とするため、最も注目してもらいたい取組・PRポイントについて具体的に記入してください。

- 【例】●最も注目してもらい・評価してもらいたい取組●一番成果があがっていると思う取組
●他の団体と異なる自分たちの強み・独自性●取組の過程で、どのような努力・苦労があったか など

私たちはまちの幸福度、ということを考えています。将来ここに住みたい、これからも住みたいと思う人はたくさんいるだろうか？ここで育った子どもたちは大人になってもここに帰ってきたいと思うだろうか？今、働き盛りの人はいつか独居老人になった時、ここで安心して過ごせるだろうか？YESが多ければ、それは「幸せなまち」だということではないかと思えます。

一時は住んでみたい街No.1だったことのあるこの街も開発から50年以上の時を経て少々くたびれてきました。インフラ面ではこの街の一番の特長である遊歩道(4000メートル以上あります)や並木の老朽化。ソフト面では自治会活動の担い手の高齢化。子育て世代は共働き世帯が増えたこともあり、自治会活動に無関心な人も多くなりました。しかし美しが丘は名前に恥じない美しい街です。

50年以上経っても美しい街、進化し続ける街というのはこの街を守り、育ててきた先人たちのたゆまぬ努力のたまものだと感じています。そのノウハウ、スピリットを次世代につないでいきたいものです。少子化・高齢化は日本全体の傾向です。でも、このまちでは創造的な少子化・高齢化を目指したいと考えました。

高齢者はこれまでの経験と知恵を提供し、若い世代は最新のスキルと体力、行動力を提供し、世代を超えて協働する。目的を持っていっしょに活動するうちに、お互いへのリスペクトは必ず生まれてくるはず。ひとりひとりが自分にできることを街に提供することで、みんなが笑顔になる。自分も楽しい。もっと街が好きになるはず、と世代を超えた協働のための活動を考えました。

そもそも「まち」のことを考えたことのない人をどう巻き込むかが課題です。見慣れた風景の中に「え！」「わあ！」というものを発見すると「なにになに？」と興味を持つはず。もっと深く知ることで愛着が深まるはず。

地域資産である遊歩道にも興味をもってもらえるし、美化にもつながる。若い世代がまちづくりに参加するきっかけにもなるんじゃないかと考え始めたのが100段階プロジェクトの試みです。

活動の第1歩としてエントリーしたヨコハマ市民まち普請のコンテストでは相当な苦戦を強いられました。プレゼンテーションのまずさのせいでしょうか、階段に色を塗ってどうするの？やりたいことが見えてこない。と、1次審査も2次審査も決選投票までもつれ込み、運に助けられてやっと採択されるに至りました。ヨコハマ市民まち普請の助成がなかったら今日の私たちの活動はないわけで、翌年からは整備完了写真を提示することで助成団体の理解を得ることが容易になりました。

活動の継続により目に見える形での整備が進んだことで、認知度も上がりました。個人住宅への100段階プレート設置に寄付という形で協力してくれる住民も増え、現在地域内外40カ所近くの個人住宅、店舗、事務所などにその場所の緯度・経度・標高・100段階の何段目にあたるかをエッチングしたプレートが貼付されています。住居表示ならぬ100段階表示です。(添付資料)

(最近はなかなか実施できていませんが)ワークショップでは子どもが作業し、おとなが手伝い、高齢者が見守るといったとてもいいスタイルの多世代協働を目にすることができます。よそで出会っても、いっしょにワークショップやったよね、という会話が生まれます。

横浜市と東急株式会社がタッグを組んで始めた「次世代郊外まちづくり」も追い風になりました。これを通じて行政の協力をはじめ、リビングラボ活動で企業や大学とのマッチングにも恵まれました。地元の自治会や商店街とのつながりも深まりました。

この活動を通じて、若い後継者もできました。相談できる生き字引の先輩方もまだまだ健在です。プロジェクトに関わったメンバーはまちづくりを「やらされてる」んじゃなくて、まちづくりを「やってる」と感じています。

【写真資料①】 まち歩きシリーズ ポスター

まち歩きシリーズ
⑦歴史マッピング

たま尾根の道？鎌倉街道？湧き水？みんなたまプラザなんですよ。そんな歴史ポイントをマッピングするまち歩きを開催します。ナビゲーターは、もちろん、宮澤さんです。

このまち歩きは、100段階プロジェクトとリビングラボのコラボ企画です。

5月26日9.45
100段階下集合

1,000円

名前 名前

宮澤高広




まち歩きシリーズ
⑤体操して歩く

5月20日10時
100段階下スタート

いつものお散歩コースに飽きてしまった地域のみなさん、そして、体操好きのみなさん、ラジオ体操の指導者の直美さんが、体操の要素を取り入れたまち歩きをナビゲートしてくれます。このまち歩きは、100段階プロジェクトとシェアカルのコラボ企画です。

1,000円

名前 名前 名前

藤元直美




まち歩きシリーズ
①建築を語る

いつものお散歩コースに飽きてしまった地域のみなさん、そして、建築好きのみなさん、あの建築家の小泉さんが田園都市建築家の会の高橋さんと一緒にたまプラザのまちを案内してくれます。このまち歩きは、専門家ナビゲーターを迎えて、シリーズ化していきます。

10月7日(土)11時
WISE Living Lab集合

一人
1,000円

名前 名前 名前

小泉雅生

お申込みは
藤井本子までメールで
mo-fu@ozzio.jp





まち歩きシリーズ
⑧トマソンリターン

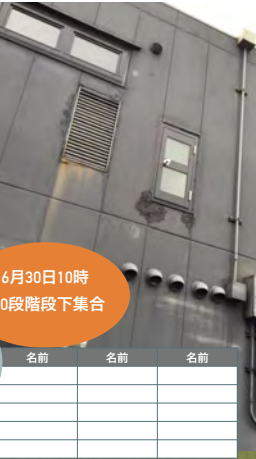
トマソン好きのみなさん、あのトマソンマッピングパーティが帰ってきます。もちろん、ナビゲーターはトマソン観測家の伊藤さんです。まち歩きをしながら、たまプラザのまちにあるトマソンをガイドしてくれます。みんなで、スマホを使って、トマソンマップをつくりましょう。

6月30日10時
100段階下集合

1,000円

名前 名前 名前

伊藤嘉朗

【写真資料②】 美しが丘小学校創立50周年お祝い階段アート 2018



【写真資料③】

100段階段のぼり初め式 2019 4月



【写真資料④】

100段階段標高プレート たまプラ遺産プレート 2018 (2019に4枚追加設



91 段目	100 標高 64m
78 段目	100 標高 62m
65 段目	100 標高 60m
63 段目	100 標高 58m
51 段目	100 標高 56m
36 段目	100 標高 54m
25 段目	100 標高 52m
14 段目	100 標高 50m
1 段目	100 標高 48m

標高プレート

150x300x12 枚

フルドサツク

ジャブジャブ池

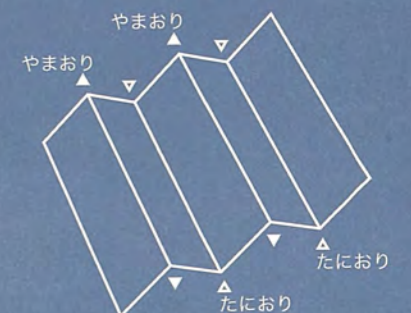
ユリノキ通り

たまプラー遺産MAP

- クルドサック
 - ▨ 階段
 - 太鼓橋
 - ▤ 公園
- | | |
|-----------|------------|
| 1 100 段階 | 7 美中桜坂 |
| 2 美しが丘小学校 | 8 ユリノキ通り |
| 3 富士見ポイント | 9 駅前ユリノキ通り |
| 4 クルドサック | 10 公園通り入り口 |
| 5 ジャブジャブ池 | 11 ロケット公園 |
| 6 ABC 公園 | 12 はなみずき通り |



この地図の使い方



▲ 部分をやまおり、▼ 部分をたにおり
にして折りたたんで使ってください。

100段階プロジェクト

100段階を登ってみよう！！

100段階の高低差は・・・17m

富士見ポイントまで行くと・・・35m

って、どのくらい？

100段階 富士見ポイントまで

20回登れば	10回登れば	東京タワー (333m)
37回登れば	18回登れば	スカイツリー (634m)
14回登れば	7回登れば	東京都庁 (243m)
222回登れば	10回登れば	富士山 (3776m)
520回登れば	253回登れば	エベレスト (8848m)



<https://100dan-kaidan.org>

100段階コラム エピソード 1

各地の百段階

元町百段階公園



かつて横浜元町から山手の丘まで、標高5～20mを一直線につなぐ階段がありました神社への参道だったようですが、関東大震災で崩れてしまいました。百段と叫ぶつ、実は101段あったそうです。今では頂部に「元町百段階公園」が設けられ、みなと横浜の夜景を眺める名所になっています。

両城の二百階段

呉市の両城小学校と両城中学校の裏にあり、標高5～45mをつなぐ階段です。映画「海猿」で、隊員がポンベをかつぎながら上り下りするトレーニング風景のロケに使われました。二百階段と叫ぶつ、実際には200段以上あるそうです。階段を登り切ると呉のまちなみを見下ろすことができます。

<https://www.city.kure.lg.jp/soshiki/67/movie-location-umi05.html>

大子町 百段階

茨城県大子町にある由緒ある十二所神社の参道となっている、標高105～125mをつなぐ階段です。ここでは、毎年役1000体のひな人形を段状に飾る「百段階でひな祭り」が行われています。段数は99段という説もあります。大子町の文化遺産として登録されています。

<http://www.daigo-bunkaisan.jp/page/page000073.html>

小田原の百段階

小田原城址でもある城山公園へといたる、標高36～57mをつなぐ階段です。階段の脇には坂が並走しており、文字通り段坂となっていますが、段数は131段とのことです。県立小田原高校の通学路で、小田原ふるさとの原風景百選に「青春の百段階」として取り上げられています。

<http://j100s.com/odawarafurusatonogenfuuukei.html>

驚神社（おどろきじんじや）の階段

たまプラーザの南口、驚神社の参道にある、標高24～34mをつなぐ階段です。段数は、45段あります。



山の名前 富士見階段からの眺望



100段階コラム エピソード 2

百段階の伝承

百段階お百度まいり

100段階の上にある円筒形のベンチは、実は百度石だったという説があります。人知れず下のベンチ(0段目)との間を百回往復し、登るたびに円筒の頂部(100段目)に触れて願をかけると、いつしか願いが成就する、とか。ベンチは二つなので、二人で一緒にお参りするものもいいかも。あれっ、それじゃ人知れずにならない・・・。



ユリノキ引力の法則

100段階の44段目は、ユリノキ通りを挟んでたまプラーザ団地内のジャブジャブ池と同じ高さにあります。その昔、さる物理学者が、44段目とジャブジャブ池から夏ミカンを転がしたところ、坂道と階段を下って同時にユリノキ通りに着いたことから、坂のまちにおける町内活動はユリノキ通りに集まる、というユリノキ引力の法則を導き出しました。現在でも、ユリノキ通りには中部自治会館があり、年に2回、住民による清掃活動が行われています。

天のサクラ橋立

その昔、若者が100段階に腰掛けてまちを眺めていると、下から杖をついた老婆が登って来ました。でも、老婆は途中で疲れて、踊り場に座り込んでしまいました。見かねた若者が、上まで老婆をおぶってあげると、老婆は丁寧に礼をいい、杖を一振り。すると、あれよという間に遊歩道は満開の花ざかりとなりました。老婆はいつの間にか天女に姿を変え、天高く飛び去りました。今でも春になると、天に向かって伸びていくかのような桜並木が楽しめます。



消えた38段目

かつて100段階の38段目は、道路際の緑石の上でできた小さな段差でした。舗装を改修する際、斜めにならされて段差は吸収されてしまいました。そこで、地方自治法百条に基づく百条委員会ならぬ、百段階委員会が開催され、車道の緑石の段差が新たな38段目として認定されました。



「旧38段目」は緑石の小さな段差だった 車道の緑石の段差を「新38段目」に認定

踊る太鼓橋

ユリノキ通りをわたる太鼓橋は、100段階の2つめの踊り場(22段目)につながります。その昔、満月の夜、太鼓橋でタヌキが太鼓腹をたたいていると、どこからかハクビシンがやってきて、リズムにあわせて踊り場で踊りはじめた、とか。今でも、町内でタヌキやハクビシンが目撃されています。



文・小泉雅生 絵・こいずみきょうこ

100段階コラム エピソード 3

遊歩道周辺

百段階の前身

昔の地図と重ねてみると、今の100段階は、横浜と川崎の市境にある尾根道からユリノキ通りのある谷筋へと降りていく道を、尾根沿いにまっすぐにつけかえたものであることがわかります。尾根の西側の小さな谷筋は、100段階の隣のクドサククとなりました。



富士見階段

100段階の先、鉄塔のそばにある富士見階段からは、多摩丘陵、相模平野を越えて、箱根の山々から大山(7224段目)、丹沢の山々まで見渡せます。丹沢山塊の上部には、富士山(22368段目)が頭を出しています。2月上旬と11月上旬には富士山頂に日が沈むダイヤモンド富士を見ることができます。

幻の北岳

横浜と川崎の市境の尾根道から西を眺めると、丹沢山塊と奥多摩の山々との間に、南アルプスの農鳥岳(17868段目)と間ノ岳を望めます。冬には雪をかぶって白くなるので、わかりやすいかと思えます。その右側に肉眼では見えづらいですが、稜線の上に北岳がわずかに顔を出しています。ここから富士山(22368段目)、北岳(18870段目)、間ノ岳(18852段目)と、日本の標高1、2、3位の山が同時に見えることとなります。

四方上りの交差点

美しが丘公園北西角の「美しが丘小学校入口」の交差点に立つと、北側は美しが丘小学校への坂、西側はユリノキ通り、東側は美しが丘東小学校へ、南側はロケットハウスの方へと、すべて上り坂で、交差点が窪地のようになっています。いったい、雨水はどこに流れるのでしょうか？

電線は続くよ、どこまでも

美しが丘地区を横切る送電線はどこを結んでいるのでしょうか。すでに昭和初期の地図に、鉄塔と電線が今と同じ位置に記載されています。西は王禅寺、新百合ヶ丘、黒川を経て、町田の西東京変電所に、東は新石川、有馬、東山田、高田、綱島を経て川崎尻手の京南変電所に至ります。尻手と黒川をつないでますが、尻手黒川道路とはだいぶ異なるルートです。

カラスの巣の上で

100段階を登り切った先に鉄塔があります。この鉄塔の上部に、毎年のようにカラスの巣ができます。春先には、カラスが巣作りのために小枝やハンガーなどを集めています。子育ての季節になると、道行く人を威嚇することもあります。襲われないように、またゴミを散らかされないように気をつけてください。



トトロの森の入り口

2丁目39番地と55番地の間に、外周道路から市境の尾根道に抜ける小径があります。イチヨウの大木のもとに茂った木々が覆い被さり、行き止まりかと思いきや、数段の階段が尾根道側へと導いています。別世界へ誘うような樹木のトンネルは「トトロの森の入り口」と呼ばれています。



住宅やまちなみだけでなく公共空間を活動の場とし、自治会組織を超えてまちに関わる人と一緒にバージョンアップ

第15回 | 住まいのまちなみコンクール

住まいのまちなみ賞

美しが丘アクセス委員会遊歩道ワーキンググループ

まちなみ・団体データ

地区名(所在地)	青葉美しが丘地区(神奈川県横浜市)
面積・戸数	約120.2ha・6,635世帯(うち団体加入約1,000世帯)
団体の種別	自治会組織のワーキンググループ
団体全体の予算	年間約120万円(施設費65万円、活動費42万円、外部委託費13万円)
外部委託	伊藤嘉朗建築設計事務所、田園都市建築家の会、藤井祥子(認定都市プランナー)
共有地/共有施設	なし
まちなみのルール	地区計画(2003年11月5日開始、2004年9月24日変更)、街並みガイドライン、遊歩道ワーキンググループ規約、アクセス委員会規則、自治会規約



維持管理活動の概要

まちなみ形成の時期

東急田園都市線たまプラーザ駅の北側に広がるエリアに位置し、東京急行電鉄を一人業務代行施工者とする元石川第一土地区画整理事業として1963~1969年に開発造成された。戸建住宅が並ぶ美しが丘2~3丁目地区は、田園住宅都市構想に基づき、クルドサックの道路網や遊歩道ネットワークが導入された街区である。

活動の開始時期と活動の経緯

第1回住まいのまちなみコンクールでの受賞を機に、地区計画区域内の歩行者専用道路(総延長3,296.15m)の維持管理および改善向上を検討するため、2006年度に青葉美しが丘中部地区計画街づくりアクセス委員会内に第一期遊歩道ワーキンググループが発足した。

2007~2010年には歩行者専用道路網の調査と改修工事を行い、2008~2019年にはAOBA+ART活動と美しが丘小・中学校と連携・協力して、百段階段や遊歩道を舞台としたアート活動が繰り広げられた。

2012~2018年には公民協働の「次世代郊外まちづくり」活動に伴う人材交流の活性化を進め、2015~2017年には青葉区健康づくり歩行者ネットワーク整備事業へ協力した。また、2017年度にはヨコハマ市民まち普請事業に「『百段階段』を中心とした美しが丘地区遊歩道の整備」が採用され、翌年度に事業化された。

このほか、美しが丘中学校にて、地域まちづくり関連の授業を4年連続で行っている。

現在の活動状況

H&C財団の助成を得て、2019年度は、①区域内遊歩道にある2つの歩道橋へのカラーリングワークショップ、②スツール設置およびロゴ彫り込み、③「たまプラーザプレート」の設置、④まち歩きMAPの作成、⑤HP制作、⑥NTT docomoのバリアフリー地図作成アプリ利用による地域内道路のバリアの測定活動への協力、などの事業を実施した。

今後の活動方針

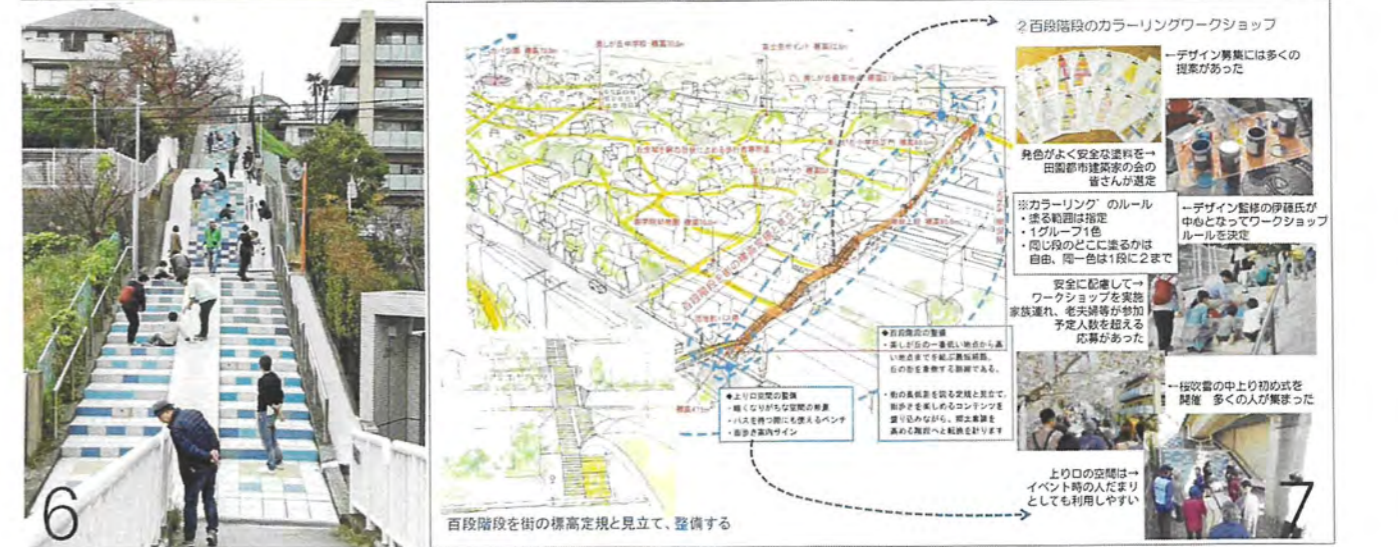
遊歩道ネットワーク全体の維持管理に向けた継続的な取り組みを推進し、地域の他団体との連携強化を図るほか、NPO法人化等の検討もしていく。また、道路整備費を自ら集めることができる組織体へと強化するための調査検討も行う。大学研究室等との連携も進め、住民主体の公共施設管理のあり方などについて検討する。

HPなど情報サイトの充実を図り、NTT docomoによるデジタル情報提供システムの構築に積極的に関わって、まちの情報発信・広報活動等を強化する。

(令和元年応募図書より)



- 1・2 | 第1期遊歩道WGの成果でデザインされた遊歩道
- 3 | たまプラーザプレート。まちのあちこちに配置された100段階段とその地点を紐づけるプレート
- 4 | サクラ咲く100段階段
- 5 | 風の commonspace。遊歩道地図、たまプラーザが表示されたサインとベンチを設置。バスを待つ人や宿題をする子どもの姿も
- 6 | 100段階段でのワークショップ風景
- 7 | 100段階段を街の標高定規と見立て、整備する



百段階段のカラーリングワークショップ

デザイン開発には多くの提案があった

デザイン監修の伊藤氏が中心となってワークショップルールを決定

安全に配慮してワークショップを実施。家族連れ、学生連が参加。予定人数を超える応募があった

桜吹雪の中上り初め式を開催。多くの人が集まった

上り口の空間はイベント時の人だまりとしても利用しやすい

百段階段を街の標高定規と見立て、整備する



1. まち歩きに携帯しやすい折り畳みマップ。これまでの活動で積み重ねたコンテンツを盛り込んだ 2. 富士見階段の上にロゴ入りのスツールを設置 3. 100段階段に花の苗を飾るため、ペットボトルを活用した鉢カバーを作成 4. 美しが丘小学校の卒業式当日、階段が「花道」に



リニューアルして
内容が充実した
ホームページ



会の活動に協賛した証の「100段階段プレート」。起伏に富むエリアを体感できる仕掛けでもある

⑤100段階段プレート協賛募集

前年度に引き続き、自宅の門扉や玄関に貼付する「100段階段プレート」の協賛を募りました。よくある表札の番地表示ではなく、緯度・経度・標高・100段階段の何段目に相当するかを記したステンレスプレートを作り、個人宅に設置してもらいます。まち歩きの途中の方々の住宅に、標高の表示が付くわけです。昨年度・今年度の募集分で、地域内外40軒の住宅・事務所・店舗などに設置されます。

●活動を通じて得られた成果

美しが丘地域は東急電鉄と横浜市の「次世代郊外まちづくり」のフィールドになっており、さまざまな地域団体が活動しています。私たちも、これらの団体と緩やかにつながりながら活動しています。

昨年度のヨコハマ市民まち普請や長年のアセス委員会活動により、横浜市都市整備局とのつながり、青葉土木事務所とのつながりもあり、さまざまな助言、協力をいただいております。当グループが自治会内のワーキンググループであることから、

近隣の自治会からの理解や協力を得られやすかったこと、会議や作業の場所の確保がしやすかったことは活動の展開にあたって大きなメリットでありました。

また、ワーキンググループは複数の建築家、デザイナー、アーティストを擁し、そこから工事施工会社、資材やデジタルスキルの協力企業とのつながりもできました。さらに、ワークショップなどのイベントでは、小学校のPTAを通じて若い子育て世代が協力してくれる場面もあり、次世代のまちづくり活動の担い手の世代交代(若返り)につながる活動になったかと思っています。

こうした活動に対して、神奈川新聞社の推薦により、第10回共同通信社「地域再生大賞」の優秀賞を受賞することができました。

課題と解決策

初期の目標は達成されつつあります。しかし地域内全域に及ぶ遊歩道の中には、経年劣化が目立つ場所がまだ数多くあり、すべての路線の改修には長い時間を要します。

行政予算にも限りがある中で、日常的な管理・保全についてはまち歩きイベントを通じて目を配りつつ、修繕効果の高い部分の改修には行政だけに頼らない資金調達を模索しています。行政に対しては、次に必要となる整備箇所や、修復後の空間をより生かしていく方を積極的に提案していくなど、官民で取り組める地域管理の在り方を考えて

いかなければなりません。

今年度は自治会区域外での修繕活動を検討したこともあり、多くの周辺団体とともに考え行動することができました。その半面、別組織(自治会)であるからこそ協力が難しかったことなどもありました。組織のあるべき形態についても、更なる検討が必要だと考えています。

今後の予定

●2020年度東急電鉄「みどリンク」アクションの助成による歩道橋下の改修、ベンチの設置

雑草の生い茂っていた歩道橋下の1箇所を整備する予算が確保できました。荒れ果ててしまっていたからの全面改修には、相当のエネルギーを要します。そうなる前に、ほんの少しずつでも目に見えてきれいに整備された場所が増えていくことが、住民の意識改革につながることを期待しています。

●第15回住宅生産振興財団「住まいのまちなみコンクール」の助成による調査・研究活動

たまプラランステーション企画(遊歩道の活用・防犯) / まちの環境調査(夜間の道路明るさ調査、空気汚染調査、生きものしらべ:鳥・虫・植物などの調査) / ワーキンググループの独立組織化の是非の研究・勉強会の実施 / シニア層の能力活用の方策(まちの見守り・まちづくりの歴史やスピリットの継承)

●その他、まち歩きツアーや花の100段階段活動などは継続実施予定

美しが丘アセス委員会遊歩道ワーキンググループ

2015年7月設立 / メンバー数: 14人 / 代表者: 藤井 本子 (ふじい・もとこ)
100dan-kaidan.org

私たちは開発時から美しが丘1~3丁目に張りめぐらされている遊歩道(歩行者専用道路)の良好な維持管理と利用促進を通じて、地域住民の愛着心およびコミュニティ活動の活性化を目指す活動を継続しています。

の高台から撮ったパノラマ写真などを紹介する内容となっています。デジタルになじまないシニア世代にも好評です。

●遊歩道ネットワークの維持管理に向けた全体計画の検討

①たまプラ遺産の認定とタイル・プレート設置(前年度補完事業)

山だった場所を切り開いて50年ほど前に造成されたニュータウンには、これといった歴史遺産はありません。ですが、いつのまにか呼び習わされた、愛称のついた通りやスポットはあります。

こうした住民になじみのある場所を「たまプラ遺産」と名付けて認定し、その場所の名前の来歴と、緯度・経度・標高・100段階段の何段目に相当するかを記したタイルを設置しました。併せて、100段階段を地域の標高スケールと見立て、たまプラ遺産の標高に相当する同じ高さに当該たまプラ遺産を示す標高プレートを設置することで紐付けし、100段階段を上りながら丘のまちを体感できる仕掛けづくりに取り組んできました。

今年度は、前年度に引き続きたまプラ遺産タイルを「駅前ゆりのき並木」、「はなみずき通り」、「公園通り入口」、「ロケット公園」の4カ所に埋め込み、100段階段にたまプラ遺産の標高プレートを設置しました。

②遊歩道ネットワーク上の施設拡充活動(前年度補完事業)

前年度は100段階段下の commons ペースに加え、階段上の眺望の良い場所に、登ってきた人がひと休むするためのスツールを設置しました。

今年度もそれに引き続き、富士見階段上にスツールを設置し、それぞれのスツール座面に「富」と「百」のロゴを彫り込みました。高低差の多い歩行者ネットワークの中で、眺望を楽しみ一息つける場所を提供することができました。

③ホームページ(HP)作成・維持管理検討

4月よりHP制作を開始しました。新しいレンタルサーバーを契約し、100段階段プロジェクトのイベント告知やレポート、100段階段のメイキングストーリー、他地域の100段階段情報、遊歩道周辺のトピックス、

子どもが楽しめる100段階段の伝承などのコラムなどを掲載。通年で情報の更新作業を継続しています。

デジタルになじみの薄い住民のために紙媒体も必要と考え、前述の散策マップ裏面にはHPの内容を記載しました。

④花の100段階段(美しが丘小学校卒業式に卒業生を送る花道)

美しが丘小学校の卒業式に合わせて、手作りしたペットボトルの鉢カバーに春の花苗を入れて100段階段に並べ、登校してくる卒業生を迎える恒例行事です。

2020年3月7日のペットボトルの鉢カバー作りワークショップに、住民13名が参加。3月19日の卒業式当日は、卒業生の花道づくりに早朝から住民(PTA含む)10名が参加し、セッティングしました。

卒業式後には記念撮影が定例化しており、花苗と鉢カバーは卒業生が持ち帰ります。今年の卒業式はコロナ禍のために来賓・父兄の参加がないという淋しいものでしたが、文字通り花を添えることができました。

美しが丘アセス委員会遊歩道ワーキンググループ 神奈川県横浜市

良質な郊外戸建住宅地における遊歩道管理を手がかりにした多世代市民等による「まち育て」



地域の子育て世代が参加して、太鼓橋をシールで彩る



団体設立経緯

美しが丘は昭和44（1969）年に事業完了した計画住宅地です。地区内には延長3000m超の遊歩道ネットワークがあり、みどり豊かでゆとりのある居住環境が形成されてきました。全国で初の事例と言われる地元発意の建築協定が締結されて30年。その成果と理念を未来に引き継いでいくことを願い、地区計画に移行した2004年4月に美しが丘アセス委員会は発足しました。

遊歩道ワーキンググループはその部会組織のひとつとして、2015年に設置されました。歩行者専用道路（遊歩道）の維持、利用促進、修景

を推進するためのワーキンググループとして活動しています。

活動概要と活動対象範囲

活動範囲は、横浜市青葉区が進める「健康づくり歩行者ネットワーク事業」の対象範囲であり、たまプラーザ駅北側エリアを広く含みます。今年度は遊歩道ネットワークのカラーリングやスツール設置、たまプラーザ遺産認定タイル・プレートの設置などの居住環境整備と、まち歩きイベントの開催、散策マップの作成など、遊歩道の利用増進や地域のコミュニティ形成につながる活動を進めました。

活動に至った理由や背景

高齢化やまちづくりに興味のない若い世代の増加により、まちづくりの担い手不足、地域コミュニティの希薄化といった問題が当地でも深刻です。それに加えて、開発から50年以上が経過し、せっかくの遊歩道が使われない→荒れる→危なくなてますます使われなくなる……といった負のスパイラルに落ち込んでいました。現在の住環境を当たり前のもので受け取り、自らがまちに関わるという意識が希薄化している現状を打開し、先人たちの「自分たちの街は自分たちで守り育てる」というまちづくりスピリットをつないでいく

ための活動を始めました。

2018年度に採択され実施した「ヨコハマ市民まち普請事業」では、「100段階プロジェクト」と称して、地域内の階段にカラーリングを施したり、コモンスペースを設置したりしました。今年度の事業は、前年度に予算上実施できなかった活動、及び今後の継続的な維持管理活動に必要な基礎的な取り組みを行うものです。

活動内容と成果

●地区内の歩道橋2カ所へのカラーリングワークショップの開催

2019年11月3日の午前・午後、同11月14日午前・午後の計4回開催しました。参加者は合計120名。

前年度のヨコハマ市民まち普請においてカラーリング整備が完了した100段階に続き、歩道橋の手すりに耐候性シール（中川ケミカル）を貼付するワークショップを実施しました。前年度同様、小学生とその家族である子育て世代・地域住民が参加して、青のグラデーション、緑のグラデーションの太鼓橋が完成しました。青は美しが丘のまちなぎの以前の谷戸の記憶の色、緑は美しが丘のゆりのき並木の色を表して

います。子育て中の若い世代が参加することで、まちづくりへの意識を喚起し、子どもたちには自分たちも関わったことによる地元意識の醸成が期待できます。

●まち歩きツアーの実施（計6回）

住民のなかの各方面のプロフェッショナルのナビゲートで、いつもと違う視点で街を歩く企画。たまプラーザ周辺の人たちの多彩なスキルを発掘、活用するサービス「シェアカル」との共催です。

知っているつもりでも新たな発見があり、毎回好評です。地域団体のまち歩きのナビゲートも行います。今年はNTTドコモの協力で、美しが丘地区のデジタルサイネージに載せる情報作成などの取り組みを進めてきました。【表1】

●散策マップの制作・印刷

まち歩きツアーなどを行う際に、携帯しやすい散策マップがあると便利だとの意見を踏まえて作成。ポケットサイズで必要などときにはすぐに開けるミウラ折りとすることを想定、案内地図と地域情報を掲載しました。

地域情報には、1年かけて積み重ねてきたホームページのいくつかのコンテンツ紹介とともに、晴れた日



カラーリングワークショップの作業風景。色の付いたシールをバランス良く貼り付けていく



まち歩きツアーは6回実施した。いろいろなテーマで参加者を募る

【表1】2019年度に実施したまち歩きツアー

開催日	まち歩きのテーマ	協力者	参加者数	概要
2019/8/4	バリアフリー地図づくり	NTTドコモ	15名	グループに分かれ道幅、傾斜、信号、歩道と車道の段差など調査し、デジタルマップに入力する。
9/23	まちのトマソンを探る	NTTドコモ トマソン研究家 伊藤嘉朗氏	18名	デジタル運動量計（fitbit）を配布し、運動量の見える化により、健康づくりに役立てる。住宅街、団地内、商店街方面の3グループに分かれトマソンを探し、デジタルマップに入力する。
11/29	体操して歩く	美しが丘そら体操 教室主宰 藤本直美氏	11名	管生緑地まで歩き、広場でNHKテレビラジオ体操の指導者による指導の下、ラジオ体操。第1、第2、ストレッチの後、皆でお弁当を食べる。
12/12	川崎北部市場探検	元地域タウン紙 編集長 宮澤高広氏	8名	川崎北部市場まで歩き、市場内の見学、買い物、市場の食堂で皆で食事する。
12/14	植物の名前を調べる	慶應SFC 蕨網林研究室	8名	スマートフォンアプリ「iNaturalist」を使用し、植物、昆虫の名前を調べながら歩く。
2020/1/14	防犯防災ポイント探し	NTTドコモ	18名	住宅街、団地内、商店街方面の3グループに分かれ、掲示板、消火栓、公衆電話自動販売機、防災器具（ベンチ）、防犯カメラなどの位置をデジタルマップに入力。

「百段階段」を中心とした美しが丘地区遊歩道の整備（青葉区）

1960年代に田園都市として開発された「美しが丘」。遊歩道という概念が珍しかった頃から、歩車分

離のまちづくりがなされてきました。春夏秋冬、まちはいろいろな表情を見せ、今も魅力的な住宅地であ

り続けています。日本で初めて住民発意の建築協定※1をつくり、地区計画※2への移行に当たって遊歩道を歩行者専用道路に位置付けるなど、「まちは、そこに住んでいる人がつくりあげていくもの」という住民の想いと努力により、素敵なまち並みは開発後50年以上経った今も健在です。

2000年頃からは、遊歩道をカラーリングしたり、住宅地にアート作品を展示したりするアートのイベントを行ってきました。その時から関わっていた代表の藤井さんは、子どもたちが地域の階段を「百段階段」と呼んでいることを知ります。単に名前がつけられているだけでなく、そのネーミングのセンス、そして、子どもたちが地域に愛着を持っていることに改めて気づき、感動したとおっしゃいます。

その百段階段を地域の中心としてまちのランドマークを増やしていけば、もっとまちに愛着を感じても



少し離れた場所からでも、カラフルな色彩で目を引く百段階段(左)
地域に点在する案内プレートには、百段階段の何段目の高さに当たるかが記載されている(右上)
情報看板前にはベンチを設置し、夜間はライトアップされる(右下)

「自分たちが作り上げた」と思っているそうです。

小学校の卒業式に階段を花で飾る「花の百段階段」も大好評で「毎年やってほしい」という要望があり、百段階段の新しいイベントが生まれました。最近では、百段階段が子どもたちやママたちの待ち合わせ場所にもなりつつあるそうです。

草も生えっぱなしで薄暗かったバス停には、周辺のマップをわかりやすく掲示板にして整備し、ライトもつけました。そこにベンチを置いたところ、子どもが集まって宿題をしたり、夜にはワインを飲む人も現れ、まちの新たな人気スポットになっています。

ヨコハマ市民まち普請事業に応募し、まちのことを改めて先輩から

レクチャーしてもらって、若い人たちが感動したり、若者のデザインセンスに年配の人が驚いたりしながら、ゆるくつながってお手伝いし合う、という関係が生まれました。自治会のアセス委員会に若い人が入ってきたり、子どもつながりで親たちが参加するようになったり、世代間の交流は着実に進んでいます。

住んでいる人がまちをつくる、という先輩たちの思いは着実に受け継がれ、美しが丘はさらに魅力的なまちに進化中です。

「百段階段を中心とした美しが丘地区遊歩道の整備（青葉区）」整備主体：美しが丘アセス委員会遊歩道ワーキンググループ
整備場所：青葉区美しが丘二丁目
整備内容：階段のカラーリング、案内プレート設置、情報看板設置
竣工時期：平成31年2月

百段階段のカラーリングのデザインは公募で決定し、子どもたちでも塗りやすいようプロの監修のもと、地域の手で整備を行いました。「ここは自分が塗った」と自慢するオジサンもいれば、子どもたちも



小学校の卒業式に合わせた「花の百段階段」。花のポットには「卒業おめでとう」の旗がさされている。

